



ペリオを愛せばペリオがわかる！ 患者さんと、歯科衛生士としての自分を 愛するための本

Dr. Hiroのペリオの愛し方
山本浩正 著

AB判/144頁/定価5,940円(本体5,400円+税10%) / 医歯薬出版(2025年11月)

休日の昼下がりに、モスバーガーでページをめくっていた私は、思わずクスッと笑っていた。本書には豊富なエビデンスと知性あるユーモアが散りばめられ、その軽やかさに気を許して読み進めていた——そして、最終章に差しかかるころ、不意に涙がドッとあふれ、慌ててペーパーナプキンで頬を押さえた。歯科医療の本を読んで泣く——そんな経験は、後にも先にもこれ一度きりだと思う。

本書はエビデンスに基づく歯周治療の専門書でありながら、その根底に流れているのは「愛」である。歯周組織、病因、検査値、器具、手技といった「正解」を追い求めがちな私たちに対し、確かな答えを示しつつも、本当に大切な大切なあり方が惜しみなく書き記されている。

ドイツの社会心理学者・エーリッヒ・フロムが『愛すること』で語った「愛は与えることであり、もらうことではない」という考え方は、本書のペリオ観と響き合う。日々歯周治療に向き合うなかで、私たちは「もっと結果を」「ペリオを好きにならない」と自分を追い込みがちだ。しかし、人を相手にする以上、知識や技術だけではペリオは完結しない。結果を求めらるなら、知識と技術を愛し、患者さんを愛し、そして自分自身を愛することが必要なのだ。山

本先生は本書を通して力強くエールを送り、導いてくれる。

ページを追うごとに「きっとできるようになる」と肩をなでられるような感覚があり、気づけばますます“Yamamoto Lover ♥”になっている。そして、それらの言葉は日本中の歯科衛生士の心に愛の種をまき、患者さんとの関係のなかで新たな愛が生まれるだろう。そんな連鎖を思い描き、胸が熱くなる。

本書は、挫けそうになる日も、再び患者さんの前に立つ勇気を与えてくれる一冊だ。読むたびに、歯科衛生士として歩む「道」が温かく胸に浮かび上がってくる。あなたがこの本を「よい本」と感じたなら、すでに愛のある歯科衛生士である証拠だ。

ここですこし私事を……。山本先生を尊敬し、カリエス Lover でもある私としては、『カリエスの愛し方』を書かなくては！』という気持ちだが、思わず湧き上がった……。

が、ご安心を。本書にはすでに、カリエスや酸蝕症への視点も、抜かりなく織り込まれている。ペリオを主軸にしながら、患者さんをまるごと診る——その姿勢に、すこし悔しくもあり、同時に頬が緩んでしまう。なんとも贅沢な一冊である。